年末調整で精算する際の源泉徴収簿の記載例

【設例】

自動車を使用して通勤している従業員(通勤距離が片道 50km)に、毎月、給料 300,000 円、通勤手当 26,000円を支給している場合

- 平成26年1月から10月(改正前の非課税限度額24,500円を適用)
 各月の総支給金額・・・301,500円(300,000円(給料)+1,500円(課税される通勤手当))
- 平成26年11月及び12月(改正後の非課税限度額28,000円を適用)
 各月の総支給金額・・・300,000円(300,000円(給料)+0円(課税される通勤手当))

【解説】

- ・ 所得税法施行令の一部を改正する政令が平成 26 年 10 月 20 日に施行され、平成 26 年 4 月以後支払われる べき通勤手当の非課税限度額が引き上げられました (自動車などの交通用具使用で通勤距離が片道 50km の場合、非課税限度額は 24,500 円から 28,000 円に引き上げられています。)。
- ・ 上記設例の場合、政令施行日(10/20)前までに既に支給された通勤手当(平成26年10月分まで)について、改正前の非課税限度額を適用し、各月の課税される通勤手当を1,500円と計算していますが、今回の改正により、平成26年4月以後支払われるべき通勤手当の非課税限度額が引き上げられたことから、平成26年4月から10月までの7か月間に支給された通勤手当のうち、課税扱いとしていた通勤手当10,500円(1.500円×7か月)は非課税となります。
- ・ したがって、この課税扱いとしていた通勤手当 10,500 円は、「非課税となる通勤手当」として総支給金額 から差し引き、年末調整で精算することになります(下記の記載例を参照。)。

■源泉徴収簿の記載例

